

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070305000		
法人名	木曾工業株式会社		
事業所名	グループホーム わらい		
所在地 (電話番号)	北九州市戸畑区新川町5-6 (電話) 093-881-4451		
評価機関名	(株)アーバン・マトリクス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年7月22日	評価確定日	平成21年8月24日

### 【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 10.6人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての		2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 18,900円
敷金	有(147,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	315 円	昼食 525 円
	夕食	525 円	おやつ 円
	1日あたり1,365円		

#### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山中央病院(歯科を含む)・後藤クリニック(往診)・かじわら歯科
---------	----------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームわらい」はJR戸畑駅から徒歩10分、医療機関やスーパー、郵便局などが近隣にある住宅街に位置しており、利便性のよい環境を有している。開設して4年目を迎え、入居者の負担軽減のために床材の変更を行ない、中庭(オープンデッキ)はウッドデッキに改修して段差を無くすなど、活動範囲を広げる工夫や安全面への配慮がなされている。毎月の外出行事や誕生会、月に2回の絵手紙教室や日曜日のお菓子作りなど、行事も多様にこなされており入居者の楽しみも多い。また職員育成にも積極的に取り組んでおり、質の確保・向上に向けた明確な姿勢を感じることができる。管理者を中心として、介護職・看護職・管理栄養士等の職員の連携、また様々な関係者の協力により、入居者本位の暮らしの実践に努めているグループホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、サービス担当者会議への家族の参加や、町内会への加入が実現している。また看護師の記録についても健康日誌を作成しており、健康管理に活かされている。今後も継続して取り組んでいく方針である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者とリーダーを中心として自己評価に取り組んでいる。日頃の取り組みを振り返る機会として、評価を活用している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域交流の予定や報告、避難訓練の予定や入居者の生活状況の報告等がなされており、地域の方からも市民センターの活用や防災等について、アイデアや意見が提案されている。ホームについての理解を深めてもらい、入居者が地域との交流を深めるための窓口となってきた。時折ビデオや写真を使い、行事や生活状況を理解してもらえるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	毎月「家族通信」を発行し、暮らし振りや健康状態を報告し、金銭管理状況とともに送付している。また半年に一度、「わらい通信」を作成し、職員紹介や行事の予定・報告を行い、町内会にも配布している。家族の来訪も多く、コミュニケーションの機会を大切にしている。意見箱・苦情相談窓口を設置している。運営推進会議の際にも、意見を積極的に聴くようにしている。苦情や意見等が出た場合には、速やかな対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	牧山東区民センターがホームの前にあり、地域行事への参加の際には大変重宝している。地域の方々との交流を積極的に働きかけており、特に保育園児との七夕や運動会などでの交流は、入居者の方々にとって一番の笑顔につながっている。今年度より町内会に加入し、地域住民として地域に根ざした活動に取り組もうとしている。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「たのしく・笑顔で・のびのびと」を基本的な理念として掲げており、地域密着型サービスの役割を反映した法人理念として、「笑いのある家庭を提供する」「地域社会との連携を図る」「入居者の視点にたったサービスの提供」を重要事項説明書に記載している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	玄関ホール・リビングなど、目にふれやすい所に掲示している。運営推進会議での説明や広報誌掲載などにも取り組み、理念が浸透するように努めている。職員は毎朝の申し送り時に復唱・確認をするようにしており、「たのしく・笑顔で・のびのびと」の言葉を心に留めて実践するようにしている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	牧山東区民センターがホームの前にあり、地域行事への参加の際には大変重宝している。地域の方々との交流を積極的に働きかけており、特に保育園児との七夕や運動会などでの交流は、入居者の方々にとって一番の笑顔につながっている。今年度より町内会に加入し、地域住民として地域に根ざした活動に取り組もうとしている。		地域住民の一員としての役割を担いながら交流を育み、災害時の協力体制の構築や地域への情報発信等、引き続きの働きかけに期待します。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価については、スタッフリーダーを中心として作成されている。評価結果については、ミーティング等で報告を行い、改善に向けて取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	地域交流の予定や報告、避難訓練の予定や入居者の生活状況の報告等がなされており、地域の方からも市民センターの活用や防災等について、アイデアや意見が提案されている。ホームについての理解を深めてもらい、入居者が地域との交流を深めるための窓口となってきた。時折ビデオや写真を使い、行事や生活状況を理解してもらえるように努めている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム わらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	介護保険課や包括支援センターの担当者より、運営についての様々な助言を得ており、またホームを高齢者見守りサポーター養成の実習場所として提供するなど、協働関係が構築されている。介護サービス相談員の定期的な訪問がある。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	以前、権利擁護に関する制度の活用について支援した経験があり、学んだ事も多い。月2回行われている会議や勉強会の中でも取り上げられている。今後も内外の研修において学ぶ機会を確保し、知識を深めていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月「家族通信」を発行し、暮らし振りや健康状態を報告し、金銭管理状況とともに送付している。また半年に一度、「わらい通信」を作成し、職員紹介や行事の予定・報告を行い、町内会にも配布している。家族の来訪も多く、コミュニケーションの機会を大切にしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	意見箱・苦情相談窓口を設置している。運営推進会議の際にも、意見を積極的に聴くようにしている。苦情や意見等が出た場合には、速やかな対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	事業所全体での馴染みの関係づくりに取り組んでいる。ベテラン職員も多く、やむを得ず離職等が発生した場合にも、サポートできる体制づくりが行われている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用については特に条件は設けていない。本人の意欲や、入居者の方々との関わり方について等を大切にしている。一人ひとりの職員の、その人らしさを尊重し、特技や能力を発揮できる環境づくりが、よりよい支援にも繋がると考えている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム わらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	年6回、外部講師を招いて多面的な接遇教育を行っている。高齢者虐待防止についても勉強会を実施し、いつも閲覧できるようファイルにて保管している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	月2回、勉強会・会議が行われている。外部研修は職員の習熟度に合わせて参加しており、伝達研修も行われている。日常的にリーダーを中心として、実践教育が行われており、様々な場面において、適切な支援が行われるよう取り組んでいる。今後は年間計画の中での研修参加に取り組もうとしている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	管理者は毎月行われる同業者間の会議に参加し、意見交換などの交流が行われている。職員間でも相互訪問等にて交流を広げており、参考になることも多い。今後はネットワーク作りに取り組み、サービスの向上に繋げていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	同じ職員が、本人・家族への訪問に数回出向き、馴染みの関係づくりを行いながら、体験入居等を行い、安心して入居できるように配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、入居者一人ひとりの役割が発揮できるような生活目標を設定し、職員がさりげなくサポートするように努めている。ふとした言葉や行動が、役立ったり、学ぶことも多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム わらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用し、思いや意向の把握に努めている。日々の会話や表情、行動等から思いを汲み取り、職員と、時には家族の協力を得てその実現に努めている。また記録や申し送りにより、職員間の共有に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族からの意見を大切にし、必要な場合は医療機関への紹介も行いながら、職員全員で総合的に検討している。計画に沿って経過実施表を作成しており、状況の把握がしやすい。昨年評価以降、少しずつではあるが担当者会議への家族の参加が行なわれている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居して1ヶ月後には、環境変化に伴うケア不足等が発生していないか、再度アセスメントを行い、見直しを行っている。通常は3ヶ月に一回の見直しを行い、状況の変化があった場合には随時見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	誕生日のお祝いとして、家族との希望の場所での外食を支援している。家族の状況に応じて、医療機関受診への支援として、併設のヘルパーステーションを活用する場合もあり、在宅介護の相談も受け付けている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居時にかかりつけ医を確認し、希望を大切にした支援が行われている。近隣の協力医より定期的な訪問診療がある。薬剤師や看護師が同行する場合もあり、ホームの看護師とともに、関係者で適切な医療が継続して受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム わらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明を行い、希望を確認している。本人・家族の意向を大切に、また関係者との連携を図りながら終末期への対応が行なわれている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	身体介護時のプライバシーの保持だけでなく、日々の言葉かけについても、尊厳を損ねない対応を心掛けている。個人情報の取り扱いについても、法令を遵守している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	個々の生活のリズムを保持することが、健康維持にも繋がるため、1日の大まかな流れはあるが、入居者のペースを重視している。希望があれば職員間での話し合いにより、柔軟に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の準備から後片付けまで、入居者にとって色々な役割を持って参加できる日課の一つとして、一人ひとりの希望や能力に合わせた生活目標を設定している。介助を必要とする入居者も多く、職員とともに同じ食事を摂れる状況にはないが、様々な話で会話が弾み、楽しく食事をしている姿があった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	ほぼ毎日、午後から入浴準備を行っており、希望によっては毎日の入浴も可能である。清潔の維持から、少なくとも週2回は入浴となるよう、体調やタイミングに配慮しながら対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム わらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の暮らしの中で、趣味や役割を持って生活することが大切な支援の一つであると捉えており、食事・掃除・植木や花の水やり・洗濯物の整理等、個別援助目標を作成し実施している。またボランティアの協力も得ながら、絵手紙教室や歌、おやつクラブ等の趣味やレクリエーション活動を楽しんでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	買い物や散歩など、希望や体調に合わせて出掛けしている。一人で散歩をする方には、さりげなく見守りを行なっている。職員だけでなく、家族への協力も呼びかけながら、外出の支援を行なっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	周囲は交通量も多く、安全面に配慮しながら、日中ホーム玄関に鍵をかけないケアを実践している。ホーム1階に併設されている、同法人のヘルパーステーションの職員の協力もあり、見守りや話し相手になってくれることもある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力の下、年2回の防災訓練が実施されており、助言・指導を得ている。詳細なマニュアルが作成されている。今年町内会に加入したこともあり、地域や関係者との協力体制づくりを、更に働きかけていく取り組みにも期待したい。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	常勤の管理栄養士による、栄養バランス等に配慮されたメニューを作成している。個々に合わせた調理方法により、食べやすさに配慮している。水分摂取も1日1000ccを目安に支援し、食事摂取量とともに記録し、健康管理に役立てている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム わらい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	2階に位置しているホームであるが、中央に中庭（オープンデッキ）があり、採光や空調に効果的な作りとなっている。床材の変更、また中庭のウッドデッキへの変更により段差を無くす為の改修が行なわれており、リスク軽減と活動範囲を広げるための配慮がなされている。清潔感あふれる室内と、花木により季節を感じながらのんびり過ごせる中庭には、ソファや椅子が配置され、くつろぎの場所となっている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	自宅より使い慣れた筆筒やテーブルが持ち込まれており、本人・家族と相談しながら配置している。家族の写真や自身で作成した絵手紙等が飾られており、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			